

「資産形成の中核に」と期待される2018年開始の「つみたてNISA」だが、現行NISAで6月に投資された先は？ ～グローバル株やインド株、アロケーションファンド、インデックスファンドが人気～

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

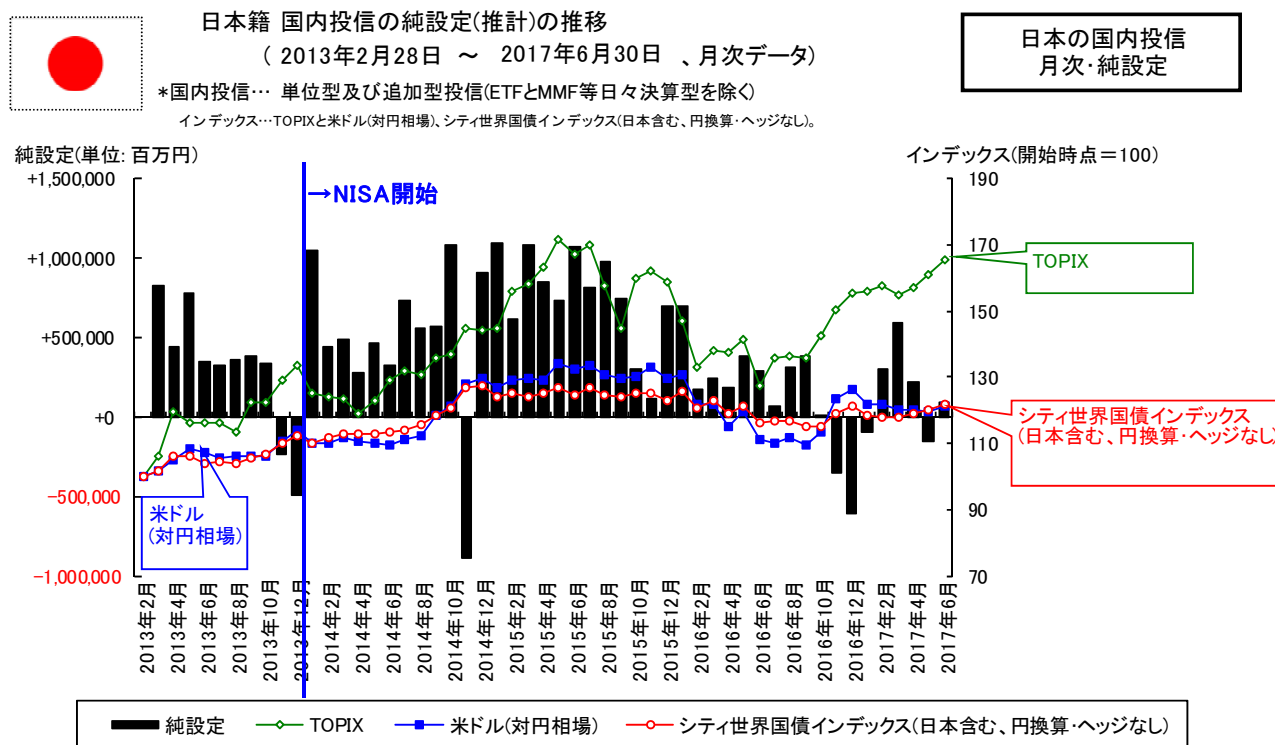
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

つみたてNISAに期待高まる中、現行NISAで最新2017年6月に投資された先は？

2018年1月から始まる長期積立版NISA(少額投資非課税制度)「つみたてNISA」は「中長期的な資産形成で中核的な役割を果たす」(2017年7月4日付SankeiBiz～URLは後述[参考ホームページ]①)と期待も大きいですが、既に2014年から始まり4年目となる現行NISAでは直近どのような投資が行われただろうか？今回は恒例の最新2017年6月、NISAにおいてどのような投信に投資されてきたか、そのベンチマークのパフォーマンス(リスクとリターン)はどうだったかを見る事とする。これらの中長期に積み立てした場合の検証結果については、次号で紹介する。

株高の6月、既存投資家は2カ月ぶりの資金純流入

NISAの投資家を、既存投資家と投資未経験者(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替し、投資の未経験者(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替する。まず **NISAの既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は2017年6月に+922億円と、2カ月ぶりの資金純流入**だった。6月はNYダウが6月19日に21528.99と史上最高値を更新、日経平均株価は6月20日に20230.41円と2015年8月18日以来1年10カ月ぶり高値まで戻して、その後は2万円前後で推移する相場である。その中、日本株は利益確定による純流出が継続するも、グローバル株やエマージング株等への純流入が拡大した(後述する)。



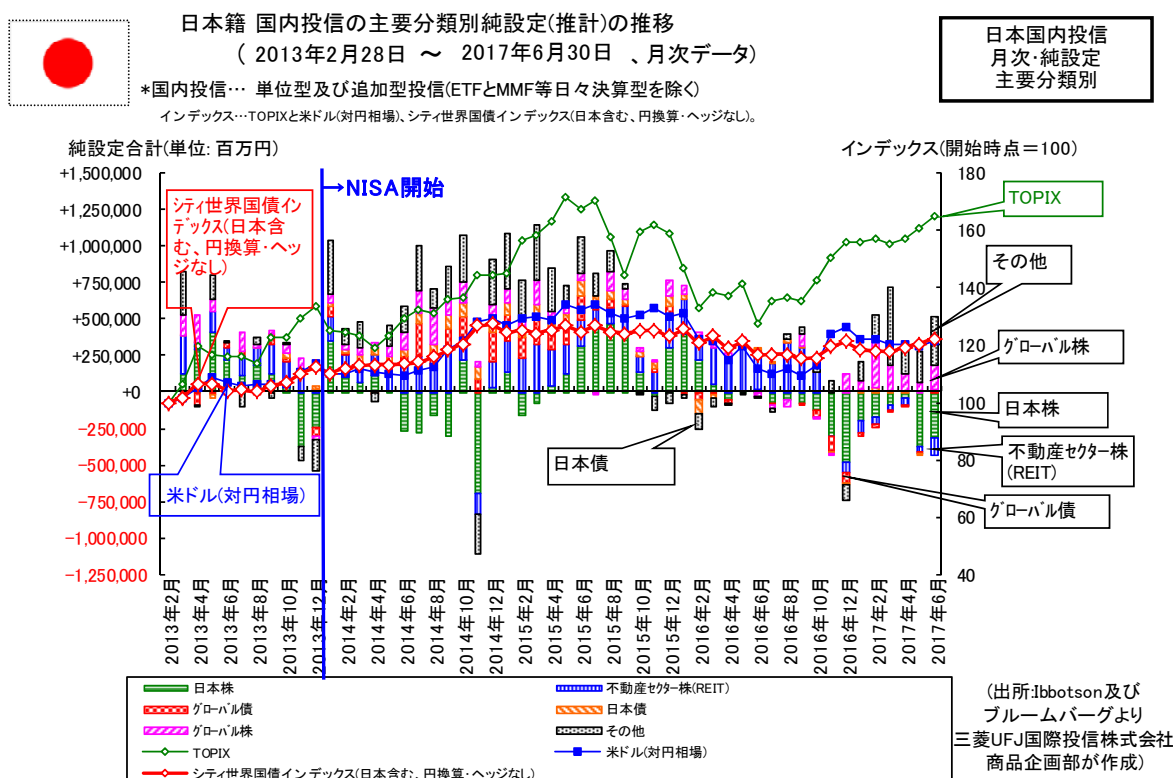
(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

NISAの既存投資家はグローバル株やインド中心にエマージング株を志向

2カ月ぶりの純流入となった6月の純設定を投資対象(主要分類)別で見ると、**2017年6月に最も純設定の大きかったのはグローバル株、次いでアセットアロケーション柔軟型、インド株、アジア株(除く日本)、エマージング株**だった(下記グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で2016年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション柔軟型、インド株、アジア株、エマージング株は「その他」に含まれる)。

6月の純設定が最も大きかったグローバル株は6月に+1638億円と、前月5月(+712億円)から倍増し、7カ月連続の純流入となっている。グローバル株に多く、2017年の大型新規設定で注目される人工知能(AI)関連ファンドは6月も引き続き純流入だった。グローバル株や人工知能(AI)関連ファンド等への人気については、「**看板公約だったイスラム圏からの入国禁止、医療保険制度改革法(オバマケア)の代替法案が頓挫するなどトランプ米大統領の政治リスクが市場に大きな影響を及ぼすなかでも、AIは中長期の成長テーマとして期待が高まっている。昨年まで人気だった海外の不動産投資信託(REIT)投信からは資金が流出しており、新たな海外資産としてAI投信が投資マネーの受け皿となっている面がある。**」(2017年4月2日付日経ヴェリタス～URLは後述[参考ホームページ]②)と報じられていた。

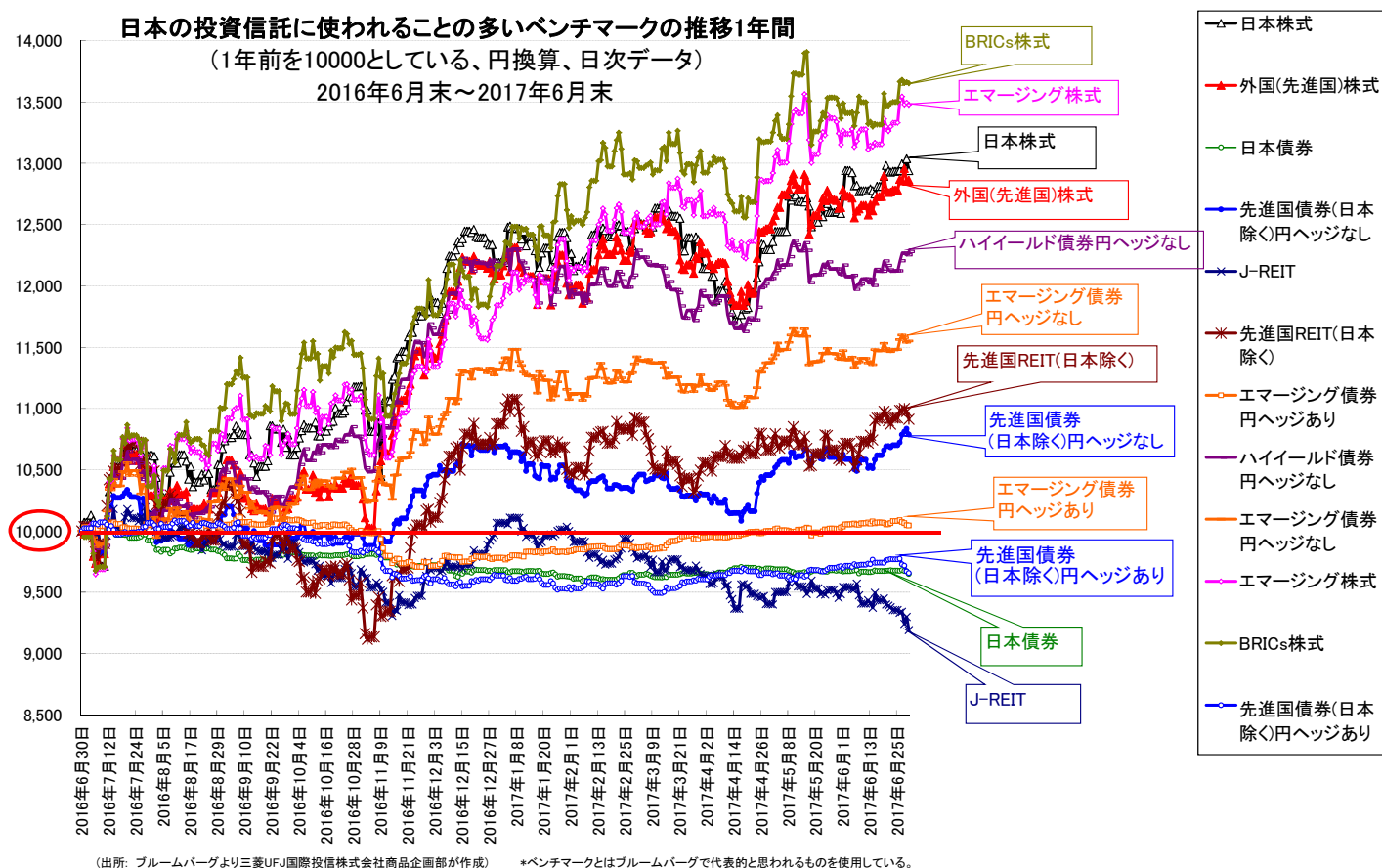
3番目に純設定が大きかったインド株は、6月に+738億円と純流入加速傾向だ(←5月+522億円←4月+225億円←3月+125億円←2月-10億円)。インドの代表的株価指数であるインドBSE・SENSEX指数は2017年6月19日に31311.57と史上最高値を記録するなどパフォーマンスの好さによるところが大きい。「**モディ政権による経済改革への期待が根強く、中長期的な相場上昇を見込む声が多い。米調査会社EPFRグローバルによると、2017年は6月26日まででインド株ファンドに約90億ドルの資金が流入。流入超だった16年(37億ドル)と15年(113億ドル)をみると、流入ペースが速い。**」(2017年7月3日付日本経済新聞夕刊～URLは後述[参考ホームページ]③)と報じられていたが、日本の投資家だけでなくグローバルでもインド株ファンド人気うかがえる。



一方、純流出が続くも鈍化傾向にあった日本株だが、6月は-3092億円と前月(5月-3654億円)とほぼ同水準の純流出となり、12カ月連続の純流出となった。不動産セクター株(REIT)も、6月に-1175億円と、前月5月(-425億円)を上回り、2016年11月以降8カ月連続の純流出となっている。

日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見たところ、下記グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs株式、エマージング株式、日本株式、先進国株式、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング債、先進国REITとなっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。前述した様に2017年6月の投信全体でグローバル株、インド株、エマージング株などは純設定が大きかったが、こうしたパフォーマンスの好調さによる所もあろう。

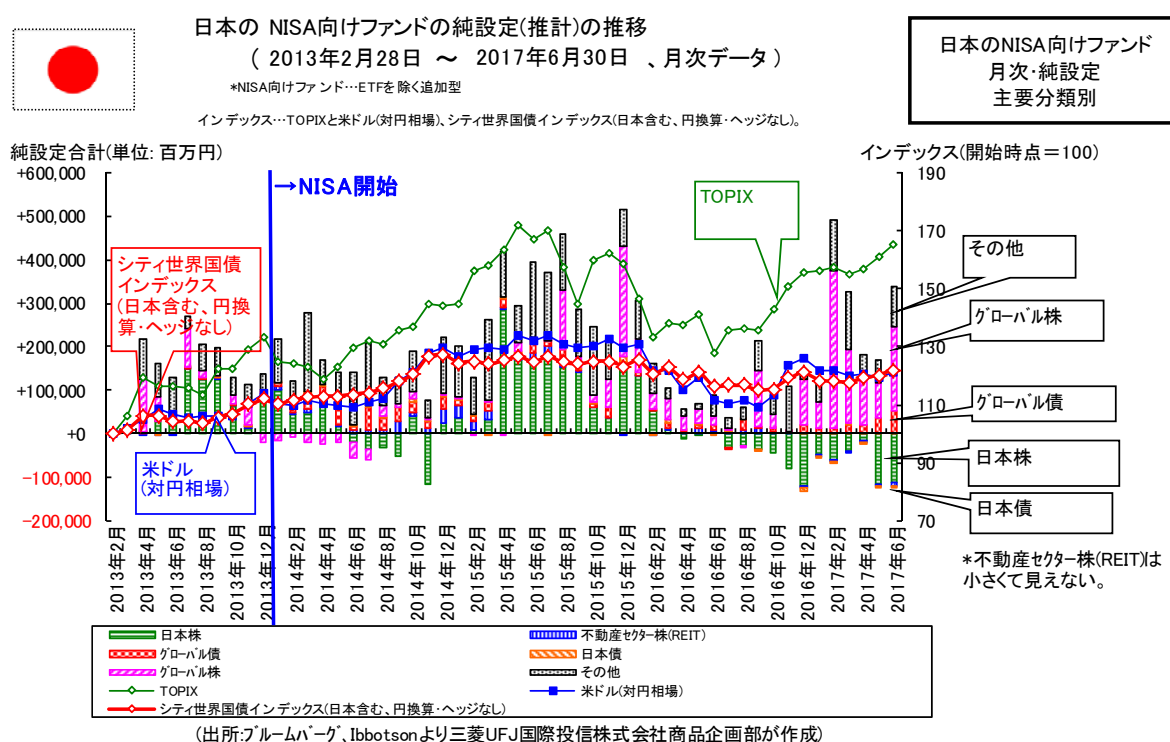
日本株のパフォーマンスは、5年で見れば、下記グラフのベンチマークで先進国株式や先進国REITに次いで3番目に好かった。1年や半年ではBRICsやエマージング株が最も好かったが、足元1カ月では先進国REITに次いで日本株が2番目に好いパフォーマンスだった。



次頁のグラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、先進国REIT、日本株式、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング債券円ヘッジなし、J-REITとなっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスは、5年では下記グラフのベンチマークで最も好く、3年や2016年12月末からの半年では3番目に好かった。こうした安定的なパフォーマンスの好きさがグローバル株への人気につながっている様に見える。

※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]④)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2017年6月30日時点で1635本となった。

投資対象(主要分類)別で見ると、2017年6月の純設定1位はグローバル株(2月から5カ月連続1位)、2位はグローバル債(同3位)、3位はアセットアロケーション柔軟型(同6位)、4位はエマージング株(同8位)、5位はアセットアロケーション積極型(同4位)だった(下記グラフ参照。アセットアロケーション型とエマージング株は「その他」に含まれる)。



2016年1年間の純設定額が+5027億円とNISA向けファンドで最大だったグローバル株は、2017年6月単月も年初来(2017年1~6月)でも純設定額が最大で、2016年9月から10カ月連続の純流入である。

また「新興国の株式などで運用する投資信託に日本の個人マネーが流入」(2017年7月1日付日本経済新聞電子版~URLは後述[参考ホームページ]⑤)と報じられていたエマージング株は、6月の純設定額が+401億円と2013年5月(+472億円)以来4年1カ月ぶりの大きさと純流入加速傾向だ(←5月+32億円←4月+28億円←3月+2億円~2015年10月以来1年6カ月ぶり純流入)。

グローバル株に次いで 2016 年の年間純設定額が大きかったアセットアロケーション型にも流入が継続しているが、「バランス型ファンドは値動きの異なる複数の資産に分散投資するため、特定の資産に集中投資するタイプと比べて価格の変動が小さい。積み立て投資など長期の運用で使われることも多く、利益確定の売りが比較的にくいことも資金の流入が続く一因とみられる。」(2017 年 4 月 13 日付日本経済新聞電子版～URL は後述[参考ホームページ]⑥)とされている通りである。

一方、日本株は、投信全体と同様、2017 年 6 月に-1134 億円とほぼ前月と同水準の純流出となった。日本株は 2015 年に+1.4 兆円超という年間純設定額だったが、2016 年は-1667 億円と純流出となり、2017 年は既に 6 月までで-3936 億円と、前年の年間純設定額の約 2.4 倍と、流出拡大傾向である。

ネット証券の投資家は日本株・グローバル株を志向

最後に、各証券会社の集計結果を見る。2017 年 7 月 7 日現在で、各社 HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新 NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。

ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社が HP で公表する最新の内容を紹介する。NISA 口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URL は後述[参考ホームページ]⑦)。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新 2017 年 6 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト 10 を発表しており、1・3 位は日本株ファンド、2・5 位はグローバル株ファンド、4 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3・5 位はインデックスファンド)となっている。前月 5 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)は、1・4 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、3 位はアジア株ファンド、5 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・4 位はインデックスファンド)だった。また、週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週 6 月 26 日から 6 月 30 日までは、1・4・5 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、3 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・5 位はインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の 5 月 29 日から 6 月 2 日までは、1・3 位は日本株ファンド、2・4・5 位はグローバル株ファンド(2～5 位はインデックスファンド)だった。

○最大手である SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 6 月 26 日から 6 月 30 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・3・5 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、4 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3 位はインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の 5 月 29 日から 6 月 2 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・3 位は日本株ファンド、2・5 位はグローバル株ファンド、4 位はアセットアロケーションファンド(2～5 位はインデックスファンド)だった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、6 月 26 日から 6 月 30 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・3 位は日本株ファンド、2・5 位はグローバル株ファンド、4 位は不動産セクター(REIT)ファンド(2・3・5 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 5 月 29 日から 6 月 2 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・4 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、3 位は不動産セクター(REIT)ファンド、5 位はインド株ファンド(2・4 位はインデックスファンド)だった。

<ジュニア NISA 投資信託>

○SBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週6月26日から6月30日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4・5位はアセットアロケーションファンド(2~4位はインデックスファンド)となっている。一ヶ月程前の5月29日から6月2日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・5位は日本株ファンド、2・3位はグローバル株ファンド、4位はアセットアロケーションファンド(2~5位はインデックスファンド)だった。

<NISA積立~2017年7月7日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2017年6月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1・3位は日本株ファンド、2・4位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*2~4位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週6月26日から6月30日までのNISA口座では、1位は日本株ファンド、2・4・5位はグローバル株ファンド、3位はアセットアロケーションファンドとなっている(*2~5位はインデックスファンド)。

ネット証券では、前月に引き続き日本株、次いでグローバル株、アセットアロケーションの人気が見られた。またインデックスファンド志向は引き続き強まっている。以上、NISA含めて金融商品購入を検討する場合に参考となれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

①2017年7月4日付 SankeiBiz「つみたてNISAを資産形成の中核に」…

「<http://www.sankeibiz.jp/business/news/170704/bse1707040500004-n1.htm>」、

②2017年4月2日付日経ヴェリタス「4日間で1100億円集める例も AI投信、実力は」…

「<http://www.nikkei.com/my/#/article/DGXMZ014806070R00C17A4K15200/>」、

③2017年7月3日付日本経済新聞夕刊「インド株が高値圏 経済改革期待根強く 世界株番付」…

「<http://www.nikkei.com/article/DGKXZ018397450T00C17A7ENI001/>」、

④2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

⑤2017年7月1日付日本経済新聞電子版「新興国投資の心得は?」…

「http://www.nikkei.com/my/#/article/DGKKZ018315720Q7A630C1PPD000/n_cid=my_top_timeline_list/」、

⑥2017年4月13日付日本経済新聞電子版「資金流入長く続くファンド 上位にバランス型目立つ 投信番付」…

「<http://www.nikkei.com/article/DGKXZ015251870T10C17A4ENK001/>」、

⑦SBI証券のNISAランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、

楽天証券のNISAランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」、

マネックス証券のNISA月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。